

私のいとは終戦の1年前にフィリピンのレイテ島で戦死した。出征前、当時東京に住んでいた私たち家族の元に故郷福井から訪れた。まだ19歳で、体格のガッチリした長身の優しい好青年であった。

7歳だった私は子ども心に覚えている。その時いとはを囲み、両親や弟とともに靖国神社の鳥居をバックに写真を撮ったのが、彼に会った最後となった。本当に戦争は残酷である。

今、この戦争の匂いが漂う安全保障法案の法制化に、安倍首相は憲法学者たちが憲法違反

平和憲法守り続ける使命

越前市

であると言明しているにもかかわらず踏み切ろうとしている。そのことにとっても憤りを感じる。憲法9条は戦争放棄を掲げ、日本は全世界に「戦争は絶対しません」と不戦の誓いをしたのである。今の流れでは「他国まで行って武器を絶対使用しません」と言い切れるのであろうか。

日本の使命は、世界に類を見ない平和憲法を守り、ふれることなく歩み続けることではないか。いとの悪夢の墓標を再び若い青年の上に立ててはいけない。戦後70年に強く思う。